

JALの理不尽、東京地裁の非常識を許さない

今年2月、2013春闘講座でJAL闘争について学びました。国鉄闘争とまったく同じだと思いました。JAL当局の狙いは明らかに労働組合つぶしです。東京地裁の不当判決でますますその思いを強くしました。これは大変だ。JAL闘争を広げなければならないということで、「国労闘争団を支える徳島の会」を母体に署名活動をつづけながら支援の輪を広げてきました。7月3日、自治労徳島県本部など23労組・団体（20000人）で「JAL闘争を支援する徳島の会」（60人）を結成し、署名、物販、四国キャラバン、支える会会員拡大オルグを積み上げ、10月16日に「不当解雇撤回JAL闘争支援徳島大集会」（150人）を開き、支援体制づくりをしてきました。

「1000人を超える新規採用をしても解雇撤回をしない。過去最高の儲けをしても解雇を正当化する。会長が解雇の必要性がないといっても首切りを押し透す。このようなJALの理不尽、東京地裁の非常識」を私たちは断じて許してはなりません。

「権利は儲けてから言えというJAL当局の儲け第一、安全軽視は、必ず第2の御巢鷹山を起こすだろう」という闘争団の報告は、JAL闘争がもはやJAL組合員だけのたたかいでなく、国民の生命を守る国民闘争であることを物語っています。JAL闘争に勝利することは闘争団の雇用と人権を守るだけでなく、国民の命と権利を守るということです。絶対負けられません。JAL闘争に勝利するために全都道府県、地域に支援共闘を作り、支える会会員を増やして、国民の支援・共感を作り出し、長期闘争に勝利しよう。

（JAL闘争支援する徳島の会、10月25日）